

知れぬとさへ掛念されてゐる。政府の首腦はセオドール・スタウニング (Theodore Stauning) と云ひ社會黨に屬し、青年が自發的に國境監視隊を組織することを奨励し、丁抹陸軍廢止案を下院通過後に撤回せしめ、政府よりは可成多數の爆彈機を註文した。獨乙のナチス側にてはアルプス山脈よりウプサラ (Uppsala) に至る北歐諸國即ち瑞典、諾威、丁抹等のスカヂネヴィア諸國を含めて一種の聯合 (Confederation) を作らんとする計畫があると云はれてゐる。これによつてヒトラ主義が北方進出をなしたことが事實である。

芬蘭 國民は非北歐系のフィンランド人の多數と北歐系瑞典人の少數より成り、ナチスは少數黨の瑞典人排斥の運動をなし居るも、左黨優勢なるが爲めに未だ公然の運動とはならぬ。

佛蘭西 佛蘭西にナチスの運動は一寸考へられぬ様であるが、ナチ宣傳はアルサス・ローン地方から侵入し、國境州には「佛人よ自覺せよ」

(Français, Réveillez-vous!) と云ふ宣傳トラヤへ見る。彼等は主として猶太商人排斥を主張してゐる。

或團體に至つては個人の運命は國家の運命に従屬すべきものなりと主張してゐる。

英國 英京倫敦オリンピア (Olympia) に於て一九三四年六月七日フアッシュヨの大會があり流血の慘を見るに至つたが、未だ勢力微弱である。

新著紹介

○地理學年報 第二卷 福井英一郎 今村學郎 小牧實繁

松井武敏 織田武雄 小野鐵二 大塚彌之助 佐々保雄

下村彦一 綿貫勇彦 吉村信吉編 東京目黒書店發行

六月 定價二圓八〇錢 菊版三五八頁 寫眞版十葉

昨年創刊されて江湖の歡迎を受けた地理學年報は其の二卷を悉なく發刊した。第一部研究として小牧氏の薩摩國吹上濱砂丘に關する浩瀚な研究の基となるべき觀察事項の報告が卷頭を飾つて居る。本年報の特色たる展望は第二部を成し地形學、湖沼學、交通地理學、地圖類、地理學史、氣候學、地理學性質論、地理學方法論、水河問題の諸項に分れて各に關する

専門家が主として一九三三年の諸論文の紹介と之が批判とを試みてゐる。昨年の我國に於ける地理學の大問題であつた氷河問題に對しては特項があると共に地形學展望中にも其の一端を説かれてあつて現今學界に如何に我國の氷河問題が取扱はれてゐるかが明瞭にされる。獨り氷河論のみでなく地理學上の各問題に對する論著は各種の雜誌や報文に掲載されてある爲め吾人の知らないものが多いが、この年報によつて初めて其の出所がわかるばかりでなく其の梗概を知ることの出来るのは何たる幸であらうか。本年報は獨り地理學に關心を持つものが必ず備へつけなければならぬもののみでなく地質學家と云はず山岳家や旅行家やの伴侶とするに足りるものと考へられる。殊に著しい論文に出た挿圖を複製したことは一級讀者にとつて何よりのことである。(中村)

○日光附近の地誌 山口貞雄著 四六版一〇九頁

圖版一葉 古今書院發行 五月 定價壹圓

著者は栃木縣鹿沼高女の教諭山口貞雄氏で東大地理出の山口貞夫氏ではない。本書で取扱つた地域は上都賀郡で天下の名勝日光を含んでゐる。章を分つ七、地形概観、地史概観、氣候概説、産業、交通網及商圏、聚落、人口密度分布に就いて述べてあるが最も紙數を費してゐるのは産業で特に特産を有する農産に就いて記述されてゐる。結語として書かれてある地域區分を擧げて見ると次の如くで農業地域から山村へ、又は休養遊覽地へと變化するのである。

新著紹介

一、山塊東麓諸扇狀地(純農村地域)

甲、新扇面(田場)―イ、栃木式(小倉川扇面)以南

ロ、鹿沼式(鹿沼新扇面)

乙、古扇面(畑場)―イ、栃木式 ロ、鹿沼式

二、足尾山塊(山村地域)

甲、溪口部(農村)

乙、溪頭部(山村)

三、今市扇狀地(農村地域)

甲、扇端(田端、純農村)

乙、扇尖(畑場、漸移帶)

丙、扇頂(田場、冷涼地農村)

四、日光火山群(休養遊覽地域)

本書は日光觀光者の學問的案内となると共に地誌の一型式の模範となるべきものと想はれる。(N)

○石綿 杉山旭著 菊版二一八頁 工政會出版部發行

定價一圓八〇錢 六月

耐熱性、熱の不良導性、電氣の絶緣性がある爲めに機械工業に、化學工業に、電氣界に、土木、建築界に互り其の用途の廣大な石綿についてあらゆる方面を記述したのが本書で、著者は日本バッキング製作所の技師長である。石綿工業に對する實際的方面の記事が多いからこの有用礦物の應用方面を知悉するに甚だ便利である。(N)

○工業礦物岩石學 内田義信著 菊版二五二頁十八頁

東京代々木昭晃堂發行 定價貳圓七〇錢 三月

著者は横濱高等工業學校講師で岩石鑛物専門の士である。近年鑛産工業の盛大になつた折から鑛物と云はず岩石に及ぶ鑛産物一般に互つた新文献の編纂は機宜なことである。本書には鑛物及岩石の性質、成因、産狀、産地、用途、産額、輸出入、市價等を説述し應用及經濟の参考にもなる様に編述されてある。よく集成されてはゐるがあまりに廣すぎた爲め、記すべくして之に到らなかつた點が少くない。石炭の條下に朝鮮の重要鑛物で内地に移入される無煙炭の記事が全々欠けてゐる如きは其の一例である。石材の産地などは盡く地質調査所の日本地質鑛産誌を寫して來て其の誤植表にさへある誤植を正さなかつたり、地名の悪いの例へば京都市内であるべき白川石産地を愛宕郡白川村にしたりしてゐる如きである。嘗て地質調査所の百萬分一地質圖説明書を殆んど謄寫して成書の一部になした應用地質學が同人間に少しの誹謗を受けたことを思ひ出して、盲目引きの無謀―つまり努力なしに書物を作ることを誓めたいものである。(S)

○地形圖に關する作業

北田宏藏著 古今書院發行
定價二圓

努力倦むことを知らない著者は地形圖に關する作業としての本書を新しく出版された、本書等高線の考察、地圖の計測地形圖に關する諸作業の三部門を解説し要を摘み術を説くこと誠に親切であつて、挿圖の多くはすべて著者自ら手を下し

たものであるといふことであるが其數凡百四十七、我等は本書を得て始めて地形圖の利用され得る理論を知りうるといつても過言でない、敢て一般の地理學者に本書をおすゝめすると同時に著者に深甚の敬意を表する。(藤田)

○山崩

中村慶三郎著 岩波書店發行 定價二圓三十錢

菊版二五四頁山崩といふ地理的事實を克明に取扱つた良なる著述である、前編山崩概況をのべ後編に山崩地域の記載がある、それは主として新潟縣に限られてゐるが、近畿にもこの種の慘害は最近に峠に起つたことである。我等はこの書から多くの新しい知識を得たことを記して著書に感謝するのである。(藤田)

○經濟地理學提要

豊田與市郎著 甲文堂發行
昭和九年六月 定價二圓

本書は著者が浪華高商で教授された稿本をまとめられたものであつて菊版二五五頁の手頃な参考書である、叙事簡潔要領をつくした點をとるべきであらう。(藤田)

○日本氣候地誌

井上梅吉著 有文書院發行 定價二圓
菊版二七〇頁、主として日本各地の氣候を説明したものである。(藤田)

報 雜

○「紀伊半島東南部の含炭第三系宮井統の地質